

平成 26 年度第 1 回 IODP 部会執行部会

日時:2014 年 4 月 3 日(水)14:00~17:30

場所:JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席者:

執行部:石渡 明(部会長・東北大学) 西 弘嗣(部会長補佐・東北大学) 池原 実(高知大学)
木村純一(JAMSTEC) 斎藤実篤(JMSTEC) 中西正男(千葉大学) 中村恭之(JAMSTEC)
平野直人(東北大学) 村山雅史(高知大学)

オブザーバー:

J-DESC 会長:木下 肇
CIB:木村 学(東京大学)
JRFB:安間 了(筑波大学)
文部科学省:木村 穰 佐伯健太郎
JAMSTEC:川村善久
事務局:梅津慶太 双木真理子(JAMSTEC)

欠席者:池原 研(産業技術総合研究所) 坂口有人(山口大学) 鈴木庸平(東京大学)
道林克禎(静岡大学) 横山祐典(東京大学大気海洋研究所) 山田泰広(京都大学)

議事次第(案)

1. IODP の動向
 - ・航海関連確認.....資料 1
 - ・SEP, EPSP 委員ローテーション.....資料 2
2. JAMSTEC の IODP 推進体制について.....資料 3
3. J-DESC 将来検討委員会報告
4. J-DESC 活動について
 - ・昨年度 IODP 部会活動報告案(総会資料用).....資料 4
 - ・今年度 IODP 部会活動方針と予算案.....資料 4-2
 - ・コアスクール報告と国際化の今後.....資料 5
5. JpGU 関連(地球掘削科学セッション, タウンホールミーティング).....資料 6-1, 6-2
6. その他
 - ・IODP-MI 関連の動き.....資料 7
 - ・その他報告事項など
 - ・次回執行部会開催日程確認

配布資料

資料 1	IODP 掘削航海スケジュール	資料 5	コアスクール次回に向けた改善点など
資料 2	SEP, EPSP 委員ローテーション	資料 6-1	地球掘削科学セッション
資料 3	CDEX 新体制	資料 6-2	タウンホールミーティング会場見積り
資料 4-1	平成 25 年度 IODP 部会活動報告(案)	資料 7	The Asahiko Taira International Scientific Ocean Drilling Research Medal
資料 4-2	平成 26 年度予算 J-DESC 予算(案)		

議事録

冒頭に木下会長より、“ラウンドテーブル”について説明がなされた。

- ・国の予算がひっ迫しており科学研究への予算削減はよくないと言われつつも、現実には十分な予算を確保できない状況が今後も続くであろうことが懸念される。
- ・このような中、マントル掘削などを可能にする「ちきゅう」の4,000m級ライザー掘削技術の開発についても十分な開発予算が確保されているわけではない。
- ・この問題は、J-DESCだけではなく、もっと広い学界、業界が関わるべきことである。そのため、組織を超えた議論や情報交換をする場として“ラウンドテーブル”を発足させたい。このラウンドテーブルはできるだけオープンな形にすることを想定している。
- ・できることならば掘削及び掘削技術の開発に関する予算を確保していけるように、ラウンドテーブルを通じて研究の提案をしていきたい。予算要求には時間の制約があるため。
- ・現時点では木下会長が発起人、トップは当事者でない方がなるべきと考えている。

西委員よりコメントがなされた。

- ・今年度のJ-DESC予算案にラウンドテーブルを開催するための予算を含める予定。

1. IODPの動向

・航海関連確認.....資料1

事務局より資料1に基づき報告がなされた。

- ・前回会議からスケジュールの変更はない。
- ・Exp. 353は4名をUSIOに推薦済み、Exp. 354は3名から応募があり、USIOへの推薦メ切りは4/15。
- ・Exp. 355, 356は3/1から乗船者募集中であるが現時点で応募者は共になし。5/1を最初の締め切りとしているが1か月程度は延長する見込み。
- ・MSPの次の航海はAtlantis Massifを実施することがECORD FBにて決定され、現在Co-chiefを選定中。J-DESCからは、2名の候補者を推薦しているが、ヨーロッパとアメリカの研究者になる見込みである。
- ・新しいIODPでは、Co-chiefの枠は決まっていないため、航海として科学的成果を上げれるかどうかCo-chief選定のポイントになる。従って、プロポーネントから選出されることが多いだろう。推薦自体はどこのPMOに対してもオープンである。
- ・「ちきゅう」の今年度の公式な情報は入っていない。

川村氏より以下の情報提供があった。

- ・TAMUによれば、Exp. 355CPPのインド側の予算が確保できない可能性があるとのことである。4月末にあるJRFBでスケジュールが白紙に戻ることも十分にありうる。
- ・NSFの考えではFY16まではWestern Pacific, FY17にSouthern Oceanを通過してFY18にAtlanticへ行くことを想定しているようだ。
- ・EFBは当初Chicxulub Impact Craterを実施することを昨年の会議で決めていたが、今年の会議でAtlantis Massifにすると方向転換した。その理由は安価なSeabed drillingでできるからであるが、Seabed drillingのシステム使用のスケジュールが埋まっている状況であり、IODPで借りてこれるかにはわからない状況。

その他コメントなど。

- ・JRFBの際に、乗船者決定のクライテリアを聞いてきてほしい。日本から良い人材を推薦しているのに、なぜInviteされないのかわからない。→日本からもっと乗船させるようにUSIOに主張するためには、ある程度乗船を希望する人が多いことをアピールする必要があり、そのためには現在募集している航海にすでに応募者が複数名いることが前提になる。

・SEP, EPSP委員ローテーション.....資料2

事務局より資料2に基づき説明がなされた。

- ・6月のSEPを最後に、9月いっぱい任期満了となる委員が2名いる(高野委員, 横山委員)。

- ・高野委員の後任は諸野氏を推薦することで前回会議時に合意されている。
- ・横山氏の後任の SEP 委員を選出する必要がある。専門は Climate and Ocean Change が望ましい。
- ・SEP 委員で後任の話をした際には、50 代のベテランを委員にアサインしたほうが良いということで一致した。
- ・文科省としては人材育成のため、ベテランよりもフレッシュなメンバーのほうが望ましい。
- ・新たに委員となる方には、6 月の SEP にオブザーバーとして出席していただき、SEP の雰囲気を知ってもらうことを考えている。

合意事項(140403-01):横山委員の後任として、長谷川 卓氏を推薦する。

2. JAMSTEC の IODP 推進体制について 資料 3

事務局より資料 3 に基づき説明がなされた。

- ・4/1 に JAMSTEC で大規模な組織改編があった。この組織改編は 5 年ごとの中期計画更新によるものである。
- ・CDEX は「ちきゅう」の運行に特化した組織として位置づけられ、センター長は堀田理事が兼務、センター長代理に倉本氏が就任した。
- ・これまで CDEX 内にあった J-DESC サポート業務は研究部門のサポートを行う研究推進部に移管された。それに伴い、梅津と双木が研究推進部研究推進第 1 課に異動となった。
- ・CDEX は今年度から J-DESC に再加盟する予定で、執行部や委員等にはならないが、「ちきゅう」の運用面での助言を求めたいと考えている。

続いて斎藤委員より海洋掘削科学研究開発センターの説明がなされた。

- ・今回の組織改編により、研究部門は大きく「戦略研究開発領域」と「基幹研究領域」の二つの領域に分けられた。そのうちの戦略研究開発領域の中に海洋掘削科学研究開発センターが設置された。
- ・このセンターのセンター長は現在、白山理事が兼務、センター長代理に Moe 氏が就任した。主な活動内容は以下の通り。
 - 物理探査と物質科学統合
 - 科学掘削技術の企画・開発(技術開発のニーズを掘り起こしながら掘削科学を推進する。実際に開発を行うのは CDEX となる)
 - 外部との連携・人材育成(資源開発系企業や J-DESC など)
- ・センターの組織は、沈み込み帯掘削研究グループ(グループリーダー:斎藤氏)、マントル・島弧掘削研究グループ(グループリーダー:田村氏)、掘削データ統合研究グループ(グループリーダー:Moe 氏)から構成され、このほか堆積・古環境系のグループの新設を検討している。

3. J-DESC 将来検討委員会報告

村山委員より説明がなされた。

- ・昨年度 3 回会議を開催した。
- ・1 回目の会議で会員から何が問題かのアンケートを取ることにして、第 2 回アンケート結果のレビューを行い、第 3 回会議で再度レビューし、方向性に関する議論を行った。議論・提言のポイントは以下の通り。
 - 法人格について長期的に検討する
 - 組織をスリム化して幹事会をなくす
 - アウトリーチ活動を強化するため、実務を行うタスクフォースを立ち上げる
 - 国際への認知度向上ということで、国際プロジェクト等への参加者派遣、ボトムアップを行うための検討を行う
 - 学会との連携強化
 - 裾野(会員)の拡大
- ・報告書は委員会の設置趣旨、アンケート結果、今後の方向性に関する提言をまとめて提出する予定。

4. J-DESC 活動について

・昨年度 IODP 部会活動報告案(総会資料用) 資料 4-1

事務局より資料 4-1 に基づき説明がなされた。

- ・ 毎年の総会資料と同じフォーマットで、昨年度の実績として更新した。
- ・ 追加や修正などがあればコメントがほしい。

以下、コメント。

- ・ 各 FB の委員数を明記すべき。
- ・ 講師派遣の実績についても記載する。

・今年度 IODP 部会活動方針と予算案 資料 4-2

事務局より資料 4-2 に基づき説明がなされた。

- ・ 共通経費の広報活動費は学会ブース代と出版物の費用などを想定している。
- ・ コアスクール開催費は今年度は古地磁気コースが開催見込のため、昨年度より 1 コース分多く予算立てしている。
- ・ コアスクール委託費はコアスクール協力者への謝金を想定していたが、謝金を新規別項目にする。
- ・ 若手国際交流助成はもともとはドイツとの掘削科学を通じた研究交流制度のために設けた予算項目であるが、執行するための制度がない。一方で、外国で行われたスクールに学生を派遣する際にこの予算項目を使用したことがある。
- ・ 臨時雇用賃金は「雇用」という名目にするると保険などの問題が発生するため、この予算項目は新しく「活動推進協力費」とする。
- ・ 新規予算項目「掘削科学将来計画費」は冒頭にて会長から説明のあった“ラウンドテーブル”のための費用（主に旅費）として 50 万円計上。
- ・ 新規予算項目「国際交流費」は J-DESC の国際アピールのため、会長に AGU に行っていただき、お話をさせていただくための出張旅費として 2 回分 100 万円を計上。
- ・ IODP 部会経費の新規予算項目「IODP 戦略検討費」は国内の IODP 関係者が集まって情報交換を行うための J-DESC 側からの参加者の旅費として 50 万円を計上する。

合意事項(140403-02) : 共通経費の若手国際交流助成と国際交流費の執行規定を作るため、部会長を中心に検討を行う。

合意事項(140403-03) : 掘削科学将来計画費については、会長からの要請に基づき、執行部にて執行を決定するものとする。

・コアスクール報告と国際化の今後 資料 5

池原委員より資料 5 に基づき説明がなされた。

- ・ 実習用のコアは限界を迎えており、来年度は別のコアが必要である。そのために JAMSTEC 船舶の公募を活用して日本海のコアを採取することを提案していく。
- ・ 国際化に伴う英語レクチャーについて、海外から 14 名、国内から 16 名の応募があった。
- ・ 国内からの参加者の半分が学部学生、3 年生からの応募も複数あった。そのため、掘削科学への入門コースとしての位置づけになりつつある。専門用語などの解説も必要になる。
- ・ 国際化については、エキスパートコースをイメージして、乗船研究者になるような人を対象に 2 年に 1 回程度の頻度で実施するのが現実的

以下コメントなど

- ・ 文科省がやっている国際教育プログラムのようなものにアプライできる道はないか？
- ・ それ単体でというのは難しい。できるとすれば、何かの予算とやる必要がある。
- ・ 国際化を行うにあたって外部資金をどうやってとるかを検討する必要がある。
- ・ ロギングコースについても国際化の話が出ている。テキストは英語化済みだが講義は日本語。1 年に 2 回（日本語と英語）実施するのは無理。日本語と英語のコースを毎年交替で実施するなどが一番現実的。

5. JpGU 関連(地球掘削科学セッション, タウンホールミーティング) 資料 6-1, 6-2

資料 6-1 に基づき, 斎藤委員より地球掘削科学セッションの報告がなされた。

- ・セッションは 4/30(水) 丸一日かけて開催。
- ・今年はい旧 IODP10 年の総括として近年の航海の速報だけでなく, 過去 10 年間に実施された航海の成果に関する発表も募集した。
- ・口頭発表が 27 件, ポスター発表が 6 件。
- ・発表分野を分けずにこのセッションを聞けばこの 10 年の掘削科学の進展がわかるようにプログラムを組んだ。

資料 6-2 に基づき, 事務局よりタウンホールミーティングについて説明がなされた。

- ・今年の JpGU は横浜で開催するため, 新たに会場を探す必要がある。事務局にて検討を行い, JpGU の会場であるパシフィコ横浜にほど近いヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルを候補として考えている。この会場であれば, JpGU の会場から近く, 知名度も高いため, 多くの参加者が見込まれる。
- ・今のところ, 開始時間は 18:30 で, 2 時間を想定しているが, ポスター発表のコアタイムが 18:15~19:30 に設定されているため, 時間は要検討。
- ・ホテルからの見積もり額はおおよそ 50 万円。これは会場費と設備代に加え, 一人 5,000 円分で 70 名分の料理代が含まれている。
- ・これまでは会場費として J-DESC が 10 万円を支払い, 飲み物代 10 万円を IODP-MI が負担してくれていたが, IODP-MI が解散したことに伴い, 飲み物代は個人負担となる(会場で個人が買う)。
※J-DESC の予算から飲み物(アルコール類)にお金を支払うことはできないことになっている(過去の総会にて指摘)。
- ・ホテル側にはもう少し料理代を抑えてもらい, 30 万円程度に抑えてもらえるように交渉する予定である。

コメント等

- ・18:30 開始だとタウンホールミーティングの半分以上の時間がポスター発表のコアタイムと重なってしまうので, せめて 19:00 開始にしてはどうか。
- ・AGU でも同じ方式で飲み物が提供されたが, 飲み物が行き渡るまで時間がかかりすぎてしまい, すぐに帰ってしまった人もいたほどで, 非常に評判が悪かった。
- ・執行部など J-DESC の関係者が寄付をしてそれを飲み物代に回せば, 個人負担を軽減できるのではないか。
- ・オールジャパンで盛り上げるということで, JAMSTEC のエグゼクティブの方々にも寄付を要請してはどうか?
- ・これまでは一方的に J-DESC 側から話題提供があり, 淡々と進んでいたが, 新たな試みとして JpGU に参加する乗船経験者にスピーチしてもらおうのはどうか?
- ・乗船経験者から話をもらうことで, より興味をもって参加する人が多くなるのではないか。
- ・オールジャパン体制を強固にするため, こうした新しい試みを行い, より多くの参加者を集めたいので J-DESC や掘削科学の紹介を行って会員に対して理解を求めるとよいのではないか。

合意事項(140403-04):開始時間を 19:00 とする。また, 飲み物代については寄付を集めて支払いする。ホテル側との交渉は事務局に任せる。

合意事項(140403-05):新たな企画として, JpGU に参加する乗船者にできるだけ参加してもらい, 自分の乗船経験を紹介するスピーチをしてもらう試みを実施する。乗船経験者への依頼は J-DESC 会長及び両部会長名にて行う。

6. その他

・IODP-MI 関連の動き 資料 7

資料 7 に基づき, 石渡部会長より報告がなされた。

- ・IODP-MI は 3/31 をもって解散した。

- ・残った資産をどうするか議論がなされ、このお金を AGU に寄付して海洋掘削科学で優れた業績を上げた若手研究者に対する賞を設けることとなった。
 - ・現在の AGU の規定では Medal はお金は出しておらず、Prize であれば受賞者にお金を出すことができるため、名称は Prize になる見込みである。
- ・その他報告事項など
- ・西部会長補佐より、月刊地球号外の IODP 特集号が出版された。上下巻に分冊され、そのうちの上巻が販売されている。号外なので、一冊 8,000 円程度する。上下巻合わせて会員に配布するとすると 140 万円近くかかる。

合意事項(140403-06) : 月刊地球の IODP 特集を J-DESC の予算にて購入し、会員に配布する。

- ・IODP10 年の成果一般公開シンポジウムについて事務局より 4/6 に開催される旨報告がなされた。
- ・次回執行部会開催日程確認
5 月 19 日の週開催でメールにて調整することとなった。